

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103185
法人名	(有)G・L ファミール
事業所名	グループホーム ファミール桑原
所在地	松山市桑原7丁目1-36-1F
自己評価作成日	平成 24 年 8 月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なじみの環境の中で安心していただけるように利用者様と職員がともに生活を送りながら、思いやりを持ってお互いを尊重できる関係を築いていけるように、職員のケアの質の向上を目指しています。地域の行事や、ボランティアさんなど、地域の方々にもお世話になり、交流を持って頂いています。家庭的な雰囲気を大切にしながら、個々に違う必要な支援に柔軟に対応できるよう、併設されているクリニック暖と医療連携を摂っています。日頃の生活面からも医療的アドバイスをもらう事が出来る為、入居者様の安心な生活をともに支えていただけており、また、状態の変化や、急変時にも迅速に対応が出来ます。希望があれば、可能な限り看取りもお受け出来る体制を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にあるマンションの一階に事業所はある。医師である代表者の24時間365日の医療連携体制が整備され、日常の健康管理だけでなく急変時や終末期においても安心できる環境にある。また、理念の一つに掲げている「地域交流」も盛んに行われ、運営推進会議には民生委員や自治会長など多数の地域住民が参加し、日頃から協力関係が築かれ地域の一員としての役割も果たしている。職員は定着率の高い安定した職場環境でケアにあたり、利用者やその家族からの信頼も厚く、質の高いサービスが提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームファミール桑原

(ユニット名) A

記入者(管理者)

氏名 谷本貴子

評価完了日 平成24年 8月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 申し送り、カンファレンスなどの際に基本理念に基づいて日々のケアが出来ているか話し合う機会持つようにしている。毎月職員で話し合い、理念に添った目標を決めることで、意識しながらケアできるようになっている。大切な事なので、これからも意識付けできるような工夫を取り入れて行きたい。</p> <p>(外部評価) 理念に基づいた毎月の目標を立てることで、意識しながら日々のケアに取り組むことができている。ケアの原点である理念をどの職員も大切にしている。理念を踏まえたケアが実践できているか、申し送りやカンファレンス、日々のケアの中で話し合っ確認されている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 運営推進会議や、認知症人形劇、地域の行事への参加などで、地域の方々との交流の機会も増えている。日常の買い物や、理美容院など近隣の店舗を利用させていただいている。散歩や、日向ぼっこなど外に出る機会、地域の方に声を掛けていただくことも多くなった。職員も積極的に挨拶や声掛けを行っている。</p> <p>(外部評価) 「地域交流の支援」という理念を掲げ、日頃から近所の店舗を利用し、散歩中には優しい声をかけてもらい、地域行事にも積極的に参加するなど、利用者は日常的な地域交流ができている。自治会に加入し、民生委員や自治会長から情報や様々な助言をもらえる関係も築けている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を利用し、地域の皆様と成年後見人制度の勉強会をさせていただいた。地域包括支援センター主催の認知症人形劇の活動にも参加させていただき、地域の皆様に介護保険制度や、認知症の早期発見を促している。これからも、機会を作り、事業所としての地域への役に立てるように、工夫していきたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2～3ヶ月に1回の運営推進会議は、定着しており、状況の報告もさせて頂いている。特に、災害時の緊急連絡網作成や、消防訓練等には、積極的に参加して頂いている。	
			(外部評価) 会議の中で防災訓練や研修などのイベントを行い、メンバーが直接参加することで理解が深まり、出された意見は運営に反映されている。また、職員も参加できるように工夫し、地域と関わる意識を強めて、利用者へのサービス向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の機会を利用して、情報交換させていた だいている。市地域包括支援センターや市の連絡会などには積極的に参加していきたい。	
			(外部評価) 市の担当者に運営推進会議の中で事業所の実情を具体的に伝え、意見交換をしている。地域包括支援センターにも困難事例を相談しアドバイスを受け、センター主催の認知症等の啓発活動に参加するなど、協力関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 代表者、管理者は、身体拘束の弊害を充分理解している。対応に苦慮する場合は、家族様も含め、話し合いを重ね、情報を集め、工夫し、身体拘束をしないケアを実践していく。また事業所内にその意志を掲示した。緊急やむ終えない場合は、きちんと記録に残す事を、徹底している。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて事例やアンケートを通して話し合い、日頃から職員の意識共有を図っている。心身の安全のため身体拘束が必要とされる場合でも、カンファレンス等で繰り返し話し合いを行い、慎重な対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修は参加する機会を作り、持ち帰って勉強会に繋げていく事で職員の意識を高めていくようにしている。日常のケアでも職員間で注意しあえる環境になるように、カンファレンス等でも話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者様で後見人制度を利用されている方が居られ事業所にも訪問してくださっているため職員も身近に感じている。後見人さんが、運営推進会議で学ぶ機会も作ってくださり、地域の皆様や職員に分かりやすく勉強会を開催してくださった。これからも積極的に学ぶ機会を作って行きたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約時には充分時間を取って重要事項説明書や、契約書に添って話をさせて頂いている。また、疑問や不安な事があった場合の相談窓口を設けおり、入居時に案内させていただいている。状態の変化による機器等の負担に関しても家族様と相談しながら決定している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 行事の際や日常でも、家族様が訪ねて来て頂きやすいように機会を作り意見を出しやすい関係作りに努めている。個々の面会時にも同様に、はなしを伺う機会を作っている。また、頂いた意見は、皆で共有出来る様に、申し送りや、カンファレンスの際に話し合い、反映できるようにしている。苦情相談窓口を提示している。 (外部評価) 面会時や行事等の際には家族から意見が出やすいように、職員全員が話しやすい雰囲気を作るなどの工夫をしている。また訪問頻度の少ない家族に対しては、手紙や電話、メールなどで利用者の様子を伝え、家族から意見が出やすい関係作りに努めている。	運営推進会議に家族の参加を促したり、多くの家族が集まる行事等を利用して直接意見交換する機会を設けるなど、家族が意見や要望が出しやすい環境づくりに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 日々のケアの場面でもカンファレンスでもオープンな場を設け、職員の意見やアイデアを活かせ、取り入れるように努力している。各ユニットのカンファレンスにお互いの職員が参加し、意見交換や、情報の共有が出来るようにしている。また、職員からの意見を管理者会議で報告し、取り入れるようにしている。</p> <p>(外部評価) 管理者はカンファレンス等を通して職員の意見を聴く機会を設けるなど、何でも言いやすい関係づくりに努めている。職員から出た意見はどんな内容もできるだけ受け入れて、職員の自信に繋がる工夫をしている。代表者も頻繁に訪れ職員と良好な関係が築かれており、意見を反映させる環境が整っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は、管理者会議を月一回開き、職員の状況や、職場環境などを把握し、働きやすい環境を提供する努力をしている。親睦会などで職員との交流の機会を持つようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 自主的に参加する職員も多く、また個々にも参加を促している。研修案内は見えるところに掲示しており、誰でも参加できるようにしている。研修参加後は、事業所内へ持ち帰り参加者が主となり、職員間で勉強会を行うようにしている。各ユニットの職員相互研修も行い、ケアの向上につなげている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 近隣グループホーム連絡会、地域密着型サービス協会の相互研修や研修など、交流の機会を作り、閉鎖的にならず、働く意欲の向上や、気付きなどに繋がるようにしている。交流する機会も増えてきている。地域包括支援センターでの認知症人形劇にも参加させて頂いている。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 可能な限り、利用者ご本人に入居前から実際にホームの様子を見て頂き、納得していただき入居となるようにしている。家族様や関係機関からも出来るだけ情報を集め、本人の意向を尊重できるように援助している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時には、家族様からの話を聞く時間を充分に取るようにしている。また、訪問の時間など特に決めずに、生活の様子を見て頂き、話を伺うことで、家族様の心情を理解するように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族様からの情報を収集して、また、こちらからの情報提供も行いながら、必要なサービスが利用できるように援助している。入居にいたる経緯を家族様、それまでかかわってこられた関係機関から情報を集めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 同じものを食べ、生活を共にしながら、経験、知恵を教えて頂いており、職員も共に生活しているように感じている。自然な形で、年長者を敬う気持ちが持てると思う。また、経験や、知恵をを活かせる場面を作れるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様が、訪ねて来やすい環境となるように訪問時間を特に決めずに、また、職員の対応にも注意している。家族様にしか出来ない援助は、負担にならない様に配慮しながらお願いしている事も多い。食事を一緒に摂って頂いたりする機会も作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会の時間を特に決めずに対応し、訪問者が気軽に気持ち良く来てくださるよう、職員全員で笑顔で対応出来るように努めている。家族様の協力も得ながら、墓参りや、法事、また今まで利用されていた美容院やお店など、昔からのなじみの関係を続けられるように、援助している。 (外部評価) 利用者が大切にしていた場所や人等について、家族から話を聴いたり、日常の会話から汲み取ったりしながら把握する努力をしている。家族の協力を得ながら行きつけの美容室や墓参りに行ったり、入居前に住んでいた地域の敬老会に参加するなど、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握する為に一人一人の話に耳を傾け、様子を職員が共有するように話し合っている。必要な場面にはさりげなく援助しながら、できるだけ利用者の関係作りを見守るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 個人情報や、家族の心情に配慮しながら、退所後も必要な情報を提供できるようにしている。退所された後でも行事等声掛けさせて頂いたり、交流のある家族様もおられる。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時のアセスメントから始まり、日々のケアのなかでの利用者からの意向や、職員の気付きを大切にして職員全体で共有できる様な記録となりケアに生かせるように、努めている。記録の方法も皆で勉強しながら、検討している。	
			(外部評価) 利用者が事業所でどのように暮らしたいか、また言葉にしづらい思いをどの職員も理解した上でケアにあたるよう、申し送りノートや利用者ごとの気づきノートを活用し共有を図っている。今後は個別のアセスメントツールを作成し、より一層利用者の視点に立った支援に繋げるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに気を付けながら、入居時のアセスメント以外にも、日々の生活の中からの情報も記録に残し、また、家族様からもお話を伺えるように努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の様子を細かく記録に残し、体調の変化や、心身状態などの変化などに気付き配慮しながら、個々の持つ力が発揮できるように、努めている。それぞれの入居者さまの得意なことを活かせる環境を作っていきたい。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 生活を共にしていく中から担当者が主となり、利用者への聞き取りや、気づきなど課題や目標を見つけ出し、月に一回のカンファレンスで評価しあいながら毎月見直しを行っている。また、家族様の面会の際には、ケアプランを確認していただき、普段の様子や、プランへの意向をお聞きするようにしている。</p> <p>(外部評価) 立案した介護計画について、全ての職員が日々ケアの中で実施し記録できるよう、分かりやすい様式を用いている。また毎月のカンファレンスで話し合い、現状に即した計画になるよう留意している。計画の変更が必要な場合には、利用者や家族、医療関係者も含めてカンファレンスを実施し、その人らしく暮らせることを大切にしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) バイタル以外にも、言葉、表情、動作等日常生活の様子が分かるような記録になるようにし、その中から気づき状態の変化など早期発見できたり、日常のケアに繋がる事も多い。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 在宅療養管理、口腔ケア、訪問マッサージ等と連携を取りながら、また既存のサービス以外にも、ボランティアさんなどの支援を頂きながら、個々のニーズに対応出来るように工夫している。これからも、情報を収集して、多様なサービスが提供できるようにしていきたい。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議、グループホーム連絡会、地域包括支援センターとの交流で地域資源の情報交換が出来てきている。地域の行事の参加、近隣店舗の利用、近所への散歩等入居様が地域に出て行く機会も作っている。これからは、ホームへ地域の方が来てくださるような催しも増やしていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) クリニックと併設している為、入居時にかかりつけ医 の変更を希望される方は多い。以前からのかかりつけ 医の方も居られ、家族様の協力を得ながら受診援助し ている。また、クリニックとの連携を得ながら必要に 応じて専門医への受診も援助している。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が、いつでも対応可能な協力医をか かりつけ医に希望している。専門医療機関への受診は 家族と相談しながら支援を行っている。心身状態の変 化があった場合には、随時、家族へ報告と相談を行 い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) クリニックと併設している為、職員、利用者共に日頃 から、訪問看護師とのコミュニケーションが取りやす く、日常の生活から理解していただきやすい。また、 少しの変化も相談出来るため、利用者様だけでなく職 員の安心にも繋がっている。これからも積極的に交流 の機会を持ちたいと思う。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は、医療機関との話し合いなどの場には出来 るだけ立ち合わせて頂き、情報交換できるようにして いる。早期退院に向け、医療連携を結んでいる医師 や、看護師との連絡、調整を行い、ホームに戻ってか らも適切な医療が受けられるように支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 段階ごとに、家族様、担当医、看護師、職員等関係者 と話し合いの場を設け、納得できる支援が出来るよう に努力している。ターミナルについては、十分な話し 合いの機会を持ち、家族や、医療機関と連携を取りな がら、本人や家族、また、職員も納得できるケアとな るように慎重に行っている。	
			(外部評価) 24時間365日対応の医療体制が構築されており、 利用者や家族が安心して最期を迎えられる体制が整っ ている。複数件の看取り経験があり、状態に変化があ るごとに、家族が安心と納得を得られるよう話し合 いを行っている。代表者が医師であるため、終末期の研 修を事業所内で実施し、職員の育成と体制づくりに努 めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応や、連絡先はマニュアル化し職員の見える場所に置いている。消防避難訓練に合わせ年に1度は救急蘇生法の講習を取り入れているまた、訓練後の総評やその際に、気付いた改善を活かすようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防訓練では、地域の方々に協力いただいて参加していただいている。職員だけでは対応出来ない災害時にどこまで安全に非難できるか話しあう場を地域の方々と重ねていきたい。風水害時のマニュアルと地域の緊急連絡網は現在作成中である。  (外部評価) 地域の防災士や住民などが参加している運営推進会議を利用して、防災訓練を実施したり意見交換をする機会を設けて、地域の協力体制を構築している。火災や地震などに備えて地域の防災訓練にも参加予定である。近隣の池の氾濫に備えた水害対策マニュアルも作成中である。	災害はいつ発生するか分からないため、常に職員の意識を高めておく必要がある。災害に備えた備品等の準備や、自主的な避難、防災訓練を計画的に行うことが望まれる。また大規模災害に備えて、近隣にある介護施設や事業所等との協力体制についても検討することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 特に言葉使いに対し、常に意識し温かく思いやりのある言葉が使えるように話し合っている。自分達の対応や言葉かけが、適切かどうかを振り返る機会を持てるように繰り返し話し合う場としてカンファレンスを利用している。また、AB相互の職員研修での気付きなど、ユニット外からの気付きもケアに反映できるようにしている。  (外部評価) 一人ひとりの尊厳や誇りを尊重したケアを行うために、カンファレンスで話し合ったり、実習生や地域ボランティアを積極的に受け入れ、対応を再確認している。トイレや浴室などプライベート空間では、特に利用者の気持ちに配慮した言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉だけではなく、表情や反応を注意深く捉え、その意味を考え対応するように話し合っている。また、入居者様一人一人に担当者をつけ、入居者様の代弁者となれるよう寄り添う努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活リズムが優先できるように支援している。職員やホームの都合で対応出来ないときは、事情を説明させて頂き、出来るだけ理解していただけるようにしている。また、別の機会を設けるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 地域との交流、外出の機会、行事を取り入れるなど、自然に身だしなみに気を使ったり、おしゃれをしたい気持ちになるような機会をつくり、支援している。また、個々のおしゃれの感覚を尊重し、選ぶ楽しみや、自由も尊重している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の食べ物を取り入れ、入居者様と一緒に手作りを心がけ、職員と利用者が一緒に食卓に着くことで話が弾み、美味しく、楽しく食事が取れるような雰囲気作りに努力している。	
			(外部評価) 献立は、栄養面のバランスや季節感を考えながら、買い出しに行った際に旬の物があればメニューに加えるなど、利用者の希望も取り入れながら柔軟に対応している。調理専門の職員を中心に食事を準備し、利用者は残存能力に応じて下ごしらえ等を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員が、食事や水分の大切さを勉強し、個々の状態や、好みに合わせ工夫している。また、記録に残し、情報を共有している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後3回の口腔ケアを習慣化できるように声掛けし、必要な所は援助している。必要な場合には、歯科往診や、口腔ケアも取り入れて、日常のケアにもアドバイス頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日頃の排泄パターンを把握し、個々の状態に合わせ、日中はトイレで排泄出来るように、夜間は、安眠を目的とした排泄の援助を行っている。なるべく薬に頼らない自然な排泄ができるように、食事や運動など工夫している。	
			(外部評価) 日中はトイレでの排泄を目標とし、利用者一人ひとりの排泄チェックを行い、それぞれの排泄リズムを把握しトイレ誘導等を行っている。夜間のオムツやパット利用などについては、利用者の状態に合わせてながらカンファレンスや申し送り等で適切な方法を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜、寒天、ヨーグルトなどを多く取り入れた食事の提供や、十分な水分摂取、適度な運動などで便秘にならない生活の工夫を行っている。また、トイレで落ち着いて排泄できるように環境作りに気を付けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望や状態に合わせ、臨機応変に、入浴日、時間の設定を可能な限り行っている。夜間入浴を楽しまれている方もいる。入浴が楽しみや憩いの時間となるように、できる限り湯船につかっていただき、ゆっくりと入浴出来るように援助している。	
			(外部評価) 利用者が気持ち良くリラックスして入浴できるよう、ゆず湯にしたり一緒に歌を歌うなど工夫して支援している。重度の利用者に対しても、湯船にゆっくり浸かれるよう介助し、入浴に対する喜びが持てるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間は、安眠を重視したケアを行っており、日中の過ごし方にも気を付け、メリハリのある生活を送れるように援助している。日中の過ごし方も自由にベッドで休息できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時には主治医から本人に解りやすく説明頂いているが、十分理解出来ない事も多い。往診時や受診時には、必ず家族様や職員が付き添い、正しい情報提供を行い、また、医師からの話と一緒に聞くようにしている。副作用についても、事前に情報を聞き、職員間で情報を共有し変化や状態を報告できるように記録に残している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 以前の生活の様子を利用者や家族様からお聞きし、趣味や得意な事を継続できるように支援している。また、レクリエーションや、行事を取り入れ楽しみや気分転換の機会を作っている。食事の後のコーヒーや、食事の際のお酒を楽しまれている方もいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々の散歩や買い物などできる限り支援している。地域の行事にも声を掛けていただき参加している。また、実家に帰ったり、お墓参りなどの支援を家族様にも協力していただきながら支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望を取り入れながら、お花見や足湯、遠足等の外出を企画している。学生ボランティアや家族の協力を得ることもある。ユニット合同の食事会を開催し、ユニット間を行き来し交流をすることで、気分転換や五感刺激の機会を増やしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物や外出の際には、できる限り利用者にお金を払って頂く機会を作り、社会との繋がりを感じて頂けるようにしている。お金を持っていないと不安な利用者には、家族様の理解をいただき、少額のお金を持っていただく場合もある。また、必要な際には、預り金があることを利用者へ伝え、安心していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居様が十分に行えない部分はフォローしながら、電話や手紙のやり取りを援助している。年賀状や暑中見舞いなど季節に合わせた挨拶状を書く機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節を感じて頂く為に生花を生けたり、手作りの飾り物を共有スペースに飾っている。環境を整え、快適に過ごせるように支援している。また、職員の声の大きさ、テレビの音量、レクリエーションの際の音などにも配慮している。</p> <p>(外部評価) 共有空間は窓から明るい日差しが差し込み、ソファで寛いだり食事の下ごしらえをするなど、各々が自由に過ごせる空間となっている。また、休んでいる利用者には、テレビの音量や職員の声が気にならないよう細やかに配慮し、ゆったりと気兼ねなく寛げる空間づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 安全に配慮しながら出来るだけ自由に思い思いに過ごせるように、また、個々の生活スペースにはプライバシーに配慮しながら必要以上に立ち入らないようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時に馴染みの物を持ち込んで頂く事で、これまでの生活と同じような環境で、安心して暮らして頂けるように援助している。仏壇を持ち込まれている方もいる。</p> <p>(外部評価) エアコンやベッド等の備え付けの物以外に、入居前に使用していたテーブルや椅子、仏壇などの思い出の物を持ち込み、使いやすく自分らしい居室作りに努めている。入居後も家族の協力を得て家族の写真や花を飾ったりしながら、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すり、表札、表示などを利用し、生活スペースで困っている場合には、日用品などを工夫したり改修や介護用品を取り入れ、安全に生活出来るように支援している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103185
法人名	(有)G・Lファミール
事業所名	グループホーム ファミール桑原
所在地	松山市桑原7丁目1-36-1F
自己評価作成日	平成 24 年 8 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なじみの環境の中で安心していただけるように利用者様と職員がともに生活を送りながら、思いやりを持ってお互いを尊重できる関係を築いていけるように、職員のケアの質の向上を目指しています。地域の行事や、ボランティアさんなど、地域の方々にもお世話になり、交流を持って頂いています。家庭的な雰囲気を大切にしながら、個々に違う必要な支援に柔軟に対応できるよう、併設されているクリニック暖と医療連携を摂っています。日頃の生活面からも医療的アドバイスをもらう事が出来る為、入居者様の安心な生活をともに支えていただけており、また、状態の変化や、急変時にも迅速に対応が出来ます。希望があれば、可能な限り看取りもお受け出来る体制を取っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にあるマンションの一階に事業所はある。医師である代表者の24時間365日の医療連携体制が整備され、日常の健康管理だけでなく急変時や終末期においても安心できる環境にある。また、理念の一つに掲げている「地域交流」も盛んに行われ、運営推進会議には民生委員や自治会長など多数の地域住民が参加し、日頃から協力関係が築かれ地域の一員としての役割も果たしている。職員は定着率の高い安定した職場環境でケアにあたり、利用者やその家族からの信頼も厚く、質の高いサービスが提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームファミール桑原

(ユニット名) B

記入者(管理者)  
氏名 谷本貴子

評価完了日 平成24年8月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 申し送り、カンファレンスなどの際に基本理念に基づいて日々のケアが出来ているか話し合う機会持つようにしている。毎月職員で話し合い、理念に添った目標を決めることで、意識しながらケアできるようになっている。大切な事なので、これからも意識付けできるような工夫を取り入れて行きたい。</p> <p>(外部評価) 理念に基づいた毎月の目標を立てることで、意識しながら日々のケアに取り組むことができている。ケアの原点である理念をどの職員も大切にしている。理念を踏まえたケアが実践できているか、申し送りやカンファレンス、日々のケアの中で話し合っ確認されている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 運営推進会議や、認知症人形劇、地域の行事への参加などで、地域の方々との交流の機会も増えている。日常の買い物や、理美容院など近隣の店舗を利用させていただいている。散歩や、日向ぼっこなど外に出る機会、地域の方に声を掛けていただくことも多くなった。職員も積極的に挨拶や声掛けを行っている。</p> <p>(外部評価) 「地域交流の支援」という理念を掲げ、日頃から近所の店舗を利用し、散歩中には優しい声をかけてもらい、地域行事にも積極的に参加するなど、利用者は日常的な地域交流ができている。自治会に加入し、民生委員や自治会長から情報や様々な助言をもらえる関係も築けている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を利用し、地域の皆様と成年後見人制度の勉強会をさせていただいた。地域包括支援センター主催の認知症人形劇の活動にも参加させていただき、地域の皆様に介護保険制度や、認知症の早期発見を促している。これからも、機会を作り、事業所としての地域への役に立てるように、工夫していきたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2～3ヶ月に1回の運営推進会議は、定着してきており、状況の報告もさせて頂いている。特に、災害時の緊急連絡網作成や、消防訓練等には、積極的に参加して頂いている。	
			(外部評価) 会議の中で防災訓練や研修などのイベントを行い、メンバーが直接参加することで理解が深まり、出された意見は運営に反映されている。また、職員も参加できるように工夫し、地域と関わる意識を強めて、利用者へのサービス向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の機会を利用して、情報交換させていた だいている。市地域包括支援センターや市の連絡会などには積極的に参加していきたい。	
			(外部評価) 市の担当者に運営推進会議の中で事業所の実情を具体的に伝え、意見交換をしている。地域包括支援センターにも困難事例を相談しアドバイスを受け、センター主催の認知症等の啓発活動に参加するなど、協力関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 代表者、管理者は、身体拘束の弊害を充分理解している。対応に苦慮する場合は、家族様も含め、話し合いを重ね、情報を集め、工夫し、身体拘束をしないケアを実践していく。また事業所内にその意志を掲示した。緊急やむ終えない場合は、きちんと記録に残す事を、徹底している。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて事例やアンケートを通して話し合い、日頃から職員の意識共有を図っている。心身の安全のため身体拘束が必要とされる場合でも、カンファレンス等で繰り返し話し合いを行い、慎重な対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修は参加する機会を作り、持ち帰って勉強会に繋げていく事で職員の意識を高めていくようにしている。日常のケアでも職員間で注意しあえる環境になるように、カンファレンス等でも話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者様で後見人制度を利用されている方が居られ事業所にも訪問してくださっているので職員も身近に感じている。後見人さんが、運営推進会議で学ぶ機会も作ってくださり、地域の皆様や職員に分かりやすく勉強会を開催してくださった。これからも積極的に学ぶ機会を作って行きたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約時には充分時間を取って重要事項説明書や、契約書に添って話をさせて頂いている。また、疑問や不安な事があった場合の相談窓口を設けおり、入居時に案内させていただいている。状態の変化による機器等の負担に関しても家族様と相談しながら決定している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 行事の際や日常でも、家族様が訪ねて来て頂きやすいように機会を作り意見を出しやすい関係作りに努めている。個々の面会時にも同様に、はなしを伺う機会を作っている。また、頂いた意見は、皆で共有出来る様に、申し送りや、カンファレンスの際に話し合い、反映できるようにしている。苦情相談窓口を提示している。 (外部評価) 面会時や行事等の際には家族から意見が出やすいように、職員全員が話しやすい雰囲気を作るなどの工夫をしている。また訪問頻度の少ない家族に対しては、手紙や電話、メールなどで利用者の様子を伝え、家族から意見が出やすい関係作りに努めている。	運営推進会議に家族の参加を促したり、多くの家族が集まる行事等を利用して直接意見交換する機会を設けるなど、家族が意見や要望が出しやすい環境づくりに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 日々のケアの場面でもカンファレンスでもオープンな場を設け、職員の意見やアイデアを活かせ、取り入れるように努力している。各ユニットのカンファレンスにお互いの職員が参加し、意見交換や、情報の共有が出来るようにしている。また、職員からの意見を管理者会議で報告し、取り入れるようにしている。</p> <p>(外部評価) 管理者はカンファレンス等を通して職員の意見を聴く機会を設けるなど、何でも言いやすい関係づくりに努めている。職員から出た意見はどんな内容もできるだけ受け入れて、職員の自信に繋がる工夫をしている。代表者も頻繁に訪れ職員と良好な関係が築かれており、意見を反映させる環境が整っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は、管理者会議を月一回開き、職員の状況や、職場環境などを把握し、働きやすい環境を提供する努力をしている。親睦会などで職員との交流の機会を持つようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 自主的に参加する職員も多く、また個々にも参加を促している。研修案内は見えるところに掲示しており、誰でも参加できるようにしている。研修参加後は、事業所内へ持ち帰り参加者が主となり、職員間で勉強会を行うようにしている。各ユニットの職員相互研修も行い、ケアの向上につなげている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 近隣グループホーム連絡会、地域密着型サービス協会の相互研修や研修など、交流の機会を作り、閉鎖的にならず、働く意欲の向上や、気付きなどに繋がるようにしている。交流する機会も増えてきている。地域包括支援センターでの認知症人形劇にも参加させて頂いている。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 可能な限り、利用者ご本人に入居前から実際にホームの様子を見て頂き、納得していただき入居となるようにしている。家族様や関係機関からも出来るだけ情報を集め、本人の意向を尊重できるように援助している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時には、家族様からの話を聞く時間を充分に取るようにしている。また、訪問の時間など特に決めずに、生活の様子を見て頂き、話を伺うことで、家族様の心情を理解するように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族様からの情報を収集して、また、こちらからの情報提供も行いながら、必要なサービスが利用できるように援助している。入居にいたる経緯を家族様、それまでかかわってこられた関係機関から情報を集めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 同じものを食べ、生活を共にしながら、経験、知恵を教えて頂いており、職員も共に生活しているように感じている。自然な形で、年長者を敬う気持ちが持てると思う。また、経験や、知恵をを活かせる場面を作れるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様が、訪ねて来やすい環境となるように訪問時間を特に決めずに、また、職員の対応にも注意している。家族様にしか出来ない援助は、負担にならない様に配慮しながらお願いしている事も多い。食事を一緒に摂って頂いたりする機会も作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会の時間を特に決めずに対応し、訪問者が気軽に気持ち良く来てくださるよう、職員全員で笑顔で対応出来るように努めている。家族様の協力も得ながら、墓参りや、法事、また今まで利用されていた美容院やお店など、昔からのなじみの関係を続けられるように、援助している。 (外部評価) 利用者が大切にしていた場所や人等について、家族から話を聴いたり、日常の会話から汲み取ったりしながら把握する努力をしている。家族の協力を得ながら行きつけの美容室や墓参りに行ったり、入居前に住んでいた地域の敬老会に参加するなど、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握する為に一人一人の話に耳を傾け、様子を職員が共有するように話し合っている。必要な場面にはさりげなく援助しながら、できるだけ利用者の関係作りを見守るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 個人情報や、家族の心情に配慮しながら、退所後も必要な情報を提供できるようにしている。退所された後でも行事等声掛けさせて頂いたり、交流のある家族様もおられる。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時のアセスメントから始まり、日々のケアのなかでの利用者からの意向や、職員の気づきを大切にして職員全体で共有できる様な記録となりケアに生かせるように、努めている。記録の方法も皆で勉強しながら、検討している。	
			(外部評価) 利用者が事業所でどのように暮らしたいか、また言葉にしづらい思いをどの職員も理解した上でケアにあたるよう、申し送りノートや利用者ごとの気づきノートを活用し共有を図っている。今後は個別のアセスメントツールを作成し、より一層利用者の視点に立った支援に繋げるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに気を付けながら、入居時のアセスメント以外にも、日々の生活の中からの情報も記録に残し、また、家族様からもお話を伺えるように努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の様子を細かく記録に残し、体調の変化や、心身状態などの変化などに気づき配慮しながら、個々の持つ力が発揮できるように、努めている。それぞれの入居者さまの得意なことを活かせる環境を作っていきたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 生活を共にしていく中から担当者が主となり、利用者への聞き取りや、気づきなど課題や目標を見つけ出し、月に一回のカンファレンスで評価しあいながら毎月見直しを行っている。また、家族様の面会の際には、ケアプランを確認していただき、普段の様子や、プランへの意向をお聞きするようにしている。</p> <p>(外部評価) 立案した介護計画について、全ての職員が日々ケアの中で実施し記録できるよう、分かりやすい様式を用いている。また毎月のカンファレンスで話し合い、現状に即した計画になるよう留意している。計画の変更が必要な場合には、利用者や家族、医療関係者も含めてカンファレンスを実施し、その人らしく暮らせることを大切にしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) バイタル以外にも、言葉、表情、動作等日常生活の様子が分かるような記録になるようにし、その中から気づき状態の変化など早期発見できたり、日常のケアに繋がる事も多い。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 在宅療養管理、口腔ケア、訪問マッサージ等と連携を取りながら、また既存のサービス以外にも、ボランティアさんなどの支援を頂きながら、個々のニーズに対応出来るように工夫している。これからも、情報を収集して、多様なサービスが提供できるようにしていきたい。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議、グループホーム連絡会、地域包括支援センターとの交流で地域資源の情報交換が出来てきている。地域の行事の参加、近隣店舗の利用、近所への散歩等入居様が地域に出て行く機会も作っている。これからは、ホームへ地域の方が来てくださるような催しも増やしていきたい。</p>	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) クリニックと併設している為、入居時にかかりつけ 医の変更を希望される方は多い。以前からのかかりつけ 医の方も居られ、家族様の協力を得ながら受診援助し ている。また、クリニックとの連携を得ながら必要に 応じて専門医への受診も援助している。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が、いつでも対応可能な協力医をか かりつけ医に希望している。専門医療機関への受診は 家族と相談しながら支援を行っている。心身状態の変 化があった場合には、随時、家族へ報告と相談を行 い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) クリニックと併設している為、職員、利用者共に日頃 から、訪問看護師とのコミュニケーションが取りやす く、日常の生活から理解していただきやすい。また、 少しの変化も相談出来るため、利用者様だけでなく職 員の安心にも繋がっている。これからも積極的に交流 の機会を持ちたいと思う。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は、医療機関との話し合いなどの場には出来 るだけ立ち合わせて頂き、情報交換できるようにして いる。早期退院に向け、医療連携を結んでいる医師 や、看護師との連絡、調整を行い、ホームに戻ってか らも適切な医療が受けられるように支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 段階ごとに、家族様、担当医、看護師、職員等関係者 と話し合いの場を設け、納得できる支援が出来るよう に努力している。ターミナルについては、十分な話し 合いの機会を持ち、家族や、医療機関と連携を取りなが ら、本人や家族、また、職員も納得できるケアとなる ように慎重に行っている。	
			(外部評価) 24時間365日対応の医療体制が構築されており、 利用者や家族が安心して最期を迎えられる体制が整っ ている。複数件の看取り経験があり、状態に変化があ るごとに、家族が安心と納得を得られるよう話し合 いを行っている。代表者が医師であるため、終末期の研 修を事業所内で実施し、職員の育成と体制づくりに努 めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応や、連絡先はマニュアル化し職員の見える場所に置いている。消防避難訓練に合わせ年に1度は救急蘇生法の講習を取り入れているまた、訓練後の総評やその際に、気付いた改善を活かすようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防訓練では、地域の方々に協力いただいて参加していただいている。職員だけでは対応出来ない災害時にどこまで安全に非難できるか話しあう場を地域の方々と重ねていきたい。風水害時のマニュアルと地域の緊急連絡網は現在作成中である。  (外部評価) 地域の防災士や住民などが参加している運営推進会議を利用して、防災訓練を実施したり意見交換をする機会を設けて、地域の協力体制を構築している。火災や地震などに備えて地域の防災訓練にも参加予定である。近隣の池の氾濫に備えた水害対策マニュアルも作成中である。	災害はいつ発生するか分からないため、常に職員の意識を高めておく必要がある。災害に備えた備品等の準備や、自主的な避難、防災訓練を計画的に行うことが望まれる。また大規模災害に備えて、近隣にある介護施設や事業所等との協力体制についても検討することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 特に言葉使いに対し、常に意識し温かく思いやりのある言葉が使えるように話し合っている。自分達の対応や言葉かけが、適切かどうかを振り返る機会を持てるように繰り返し話し合う場としてカンファレンスを利用している。また、AB相互の職員研修での気付きなど、ユニット外からの気付きもケアに反映できるようにしている。  (外部評価) 一人ひとりの尊厳や誇りを尊重したケアを行うために、カンファレンスで話し合ったり、実習生や地域ボランティアを積極的に受け入れ、対応を再確認している。トイレや浴室などプライベート空間では、特に利用者の気持ちに配慮した言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉だけではなく、表情や反応を注意深く捉え、その意味を考え対応するように話し合っている。また、入居者様一人一人に担当者をつけ、入居者様の代弁者となれるよう寄り添う努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活リズムが優先できるように支援している。職員やホームの都合で対応出来ないときは、事情を説明させて頂き、出来るだけ理解していただけるようにしている。また、別の機会を設けるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 地域との交流、外出の機会、行事を取り入れるなど、自然に身だしなみに気を使ったり、おしゃれをしたい気持ちになるような機会をつくり、支援している。また、個々のおしゃれの感覚を尊重し、選ぶ楽しみや、自由も尊重している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の食べ物を取り入れ、入居者様と一緒に手作りを心がけ、職員と利用者が一緒に食卓に着くことで話が弾み、美味しく、楽しく食事が取れるような雰囲気作りに努力している。	
			(外部評価) 献立は、栄養面のバランスや季節感を考えながら、買い出しに行った際に旬の物があればメニューに加えるなど、利用者の希望も取り入れながら柔軟に対応している。調理専門の職員を中心に食事を準備し、利用者は残存能力に応じて下ごしらえ等を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員が、食事や水分の大切さを勉強し、個々の状態や、好みに合わせ工夫している。また、記録に残し、情報を共有している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後3回の口腔ケアを習慣化できるように声掛けし、必要な所は援助している。必要な場合には、歯科往診や、口腔ケアも取り入れて、日常のケアにもアドバイス頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日頃の排泄パターンを把握し、個々の状態に合わせ、日中はトイレで排泄出来るように、夜間は、安眠を目的とした排泄の援助を行っている。なるべく薬に頼らない自然な排泄ができるように、食事や運動など工夫している。	
			(外部評価) 日中はトイレでの排泄を目標とし、利用者一人ひとりの排泄チェックを行い、それぞれの排泄リズムを把握しトイレ誘導等を行っている。夜間のオムツやパット利用などについては、利用者の状態に合わせてながらカンファレンスや申し送り等で適切な方法を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜、寒天、ヨーグルトなどを多く取り入れた食事の提供や、十分な水分摂取、適度な運動などで便秘にならない生活の工夫を行っている。また、トイレで落ち着いて排泄できるように環境作りに気を付けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望や状態に合わせ、臨機応変に、入浴日、時間の設定を可能な限り行っている。夜間入浴を楽しまれている方もいる。入浴が楽しみや憩いの時間となるように、できる限り湯船につかっていただき、ゆっくりと入浴出来るように援助している。	
			(外部評価) 利用者が気持ち良くリラックスして入浴できるよう、ゆず湯にしたり一緒に歌を歌うなど工夫して支援している。重度の利用者に対しても、湯船にゆっくり浸かれるよう介助し、入浴に対する喜びが持てるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間は、安眠を重視したケアを行っており、日中の過ごし方にも気を付け、メリハリのある生活を送れるように援助している。日中の過ごし方も自由にベッドで休息できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時には主治医から本人に解りやすく説明頂いているが、十分理解出来ない事も多い。往診時や受診時には、必ず家族様や職員が付き添い、正しい情報提供を行い、また、医師からの話と一緒に聞くようにしている。副作用についても、事前に情報を聞き、職員間で情報を共有し変化や状態を報告できるように記録に残している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 以前の生活の様子を利用者や家族様からお聞きし、趣味や得意な事を継続できるように支援している。また、レクリエーションや、行事を取り入れ楽しみや気分転換の機会を作っている。食事の後のコーヒーや、食事の際のお酒を楽しまれている方もいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々の散歩や買い物などできる限り支援している。地域の行事にも声を掛けていただき参加している。また、実家に帰ったり、お墓参りなどの支援を家族様にも協力していただきながら支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望を取り入れながら、お花見や足湯、遠足等の外出を企画している。学生ボランティアや家族の協力を得ることもある。ユニット合同の食事会を開催し、ユニット間を行き来し交流をすることで、気分転換や五感刺激の機会を増やしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物や外出の際には、できる限り利用者にお金を払って頂く機会を作り、社会との繋がりを感じて頂けるようにしている。お金を持っていないと不安な利用者には、家族様の理解をいただき、少額のお金を持っていただく場合もある。また、必要な際には、預り金があることを利用者へ伝え、安心していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居様が十分に行えない部分はフォローしながら、電話や手紙のやり取りを援助している。年賀状や暑中見舞いなど季節に合わせた挨拶状を書く機会を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節を感じて頂く為に生花を生けたり、手作りの飾り物を共有スペースに飾っている。環境を整え、快適に過ごせるように支援している。また、職員の声の大きさ、テレビの音量、レクリエーションの際の音などにも配慮している。</p> <p>(外部評価) 共有空間は窓から明るい日差しが差し込み、ソファで寛いだり食事の下ごしらえをするなど、各々が自由に過ごせる空間となっている。また、休んでいる利用者には、テレビの音量や職員の声が気にならないよう細やかに配慮し、ゆったりと気兼ねなく寛げる空間づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 安全に配慮しながら出来るだけ自由に思い思いに過ごせるように、また、個々の生活スペースにはプライバシーに配慮しながら必要以上に立ち入らないようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時に馴染みの物を持ち込んで頂く事で、これまでの生活と同じような環境で、安心して暮らして頂けるように援助している。仏壇を持ち込まれている方もいる。</p> <p>(外部評価) エアコンやベッド等の備え付けの物以外に、入居前に使用していたテーブルや椅子、仏壇などの思い出の物を持ち込み、使いやすく自分らしい居室作りに努めている。入居後も家族の協力を得て家族の写真や花を飾ったりしながら、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すり、表札、表示などを利用し、生活スペースで困っている場合には、日用品などを工夫したり改修や介護用品を取り入れ、安全に生活出来るように支援している。</p>	